

ミヤマモンキチョウは安曇野市の蝶友から送ってもらった蛹から羽化した新鮮個体♂♀の標本が手元にあるが、現在は準絶滅危惧選定種として保護の対象であり、野外で飛ぶ姿を見られたら幸いというまさに希少チョウである。



May 16, 1997 長野根子岳産飼育羽化  
ミヤマモンキチョウ ♂



May 16, 1997 長野根子岳産飼育羽化  
ミヤマモンキチョウ ♀

本種は紛れもない高山蝶で、出会いは標高 1700m 以上の食樹であるクロマメノキが自生する高山帯まででかけないと会えないチョウ。平地でふつうにみられるモンキチョウにはない、翅縁にあるピンク色の鱗毛が特徴的で、翅表の幅広い黒い部分にいかにも高山蝶の風格を感じる。

2016 年 7 月、ヒメギフチョウの保全活動団体である「赤城姫を愛する集まり」の松村さんにお世話をお願いして実現したミヤマシロチョウの保全状況視察時に、群馬県の「高山蝶を守る会」の協力も得て軽登山でのぼった小烏帽子岳で、参加者の集合写真を撮っていることなど全く知ることもなく、登山道を勝手にどんどん先へと進んで路傍一帯にクロマメノキが



茂る場所へと行き当たり、そこでしばらく様子を見てみると、すばしっこい飛翔でミヤマモンキチョウの♂個体が飛び、やがてクロマメノキに産卵して回る♀個体も観察できる。路傍の近い葉っぱに産卵したので確認すると、同じ葉上にややピンク色を帯びた古く産み付けられた卵も見る事ができる。そのうち 300m 望遠レンズを装着した重いカメラをかついだ加古川の里山・ギフチョウ・ネットの同僚もやってきて、筆者が見つけた雌雄で絡む場面をカシャカシャと連射で撮りまくる。ビデオ撮影記録から切り取った求愛行動が以下の映像で、このようなシーンにはそう



簡単には出会えないと思われる。